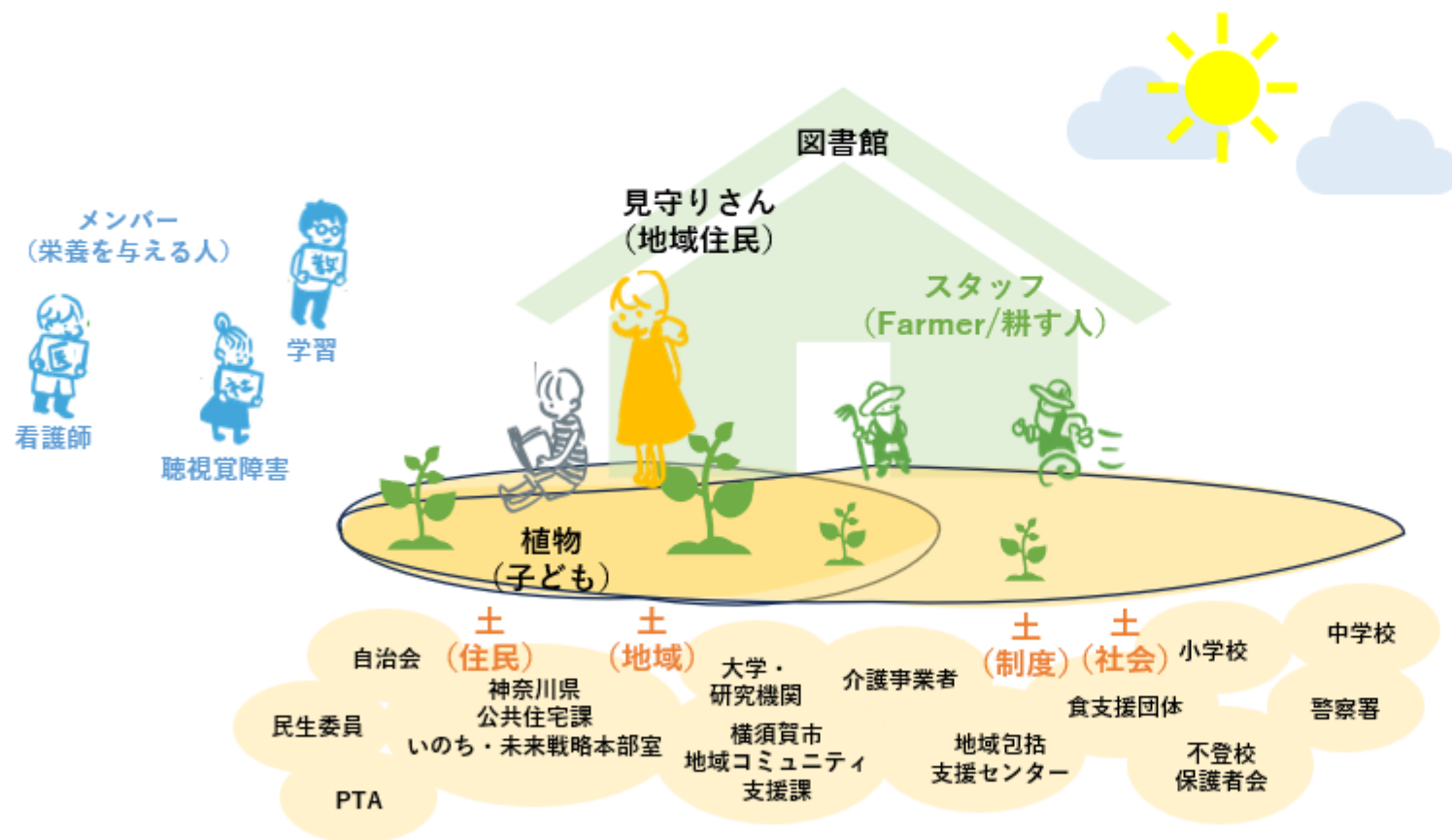


地域を耕す、仕組み

必要な情報と安心できる時間、多様な他者との関わりを育む



▼お金が介在しない関わりの人々



「地域の子ども」(植物で表現) すべての子どもが自由に出入りができる。多様な他者との交流により、地域に根を張り、いざという時に相談できる人・頼れる人を得る。



「見守りさん」地域住民が自主的に参加。

来館者を見守り、図書館の運営を行う。公園や道端で子どもに声を掛けるのは憚られる現代社会において、ここでは子どもたちと自由に安心して過ごすことができる。人にやさしくしたい人は誰でも、子どもも大人も見守りさんになれる。

▼有償で関わる人々



「ファーマー (Farmer/耕す人)」見守りさんが見守りやすい環境をつくる。地域を土壌に例えて、子ども(植物)が根を張りやすいように土をふかふかに耕す人。

図書館の中を耕す「運営・安心安全」担当のファーマー(←)と、図書館の外を耕す「相談・ネットワーク」担当ファーマー(→)の2種類がいる。



「メンバー」専門職。看護師、社会福祉士、障害支援員、学習支援員など専門性の高いことや個別に目的をもって、子ども・見守りさんをサポートする人。



「土壌」住民・制度・地域・社会を土に例えて、ファーマーが①耕し資源の掘り起こし、②ネットワークをつくる。

このネットワーク(情報流通)は、個別支援「ワンハウス」「訪問看護」の基盤となる。福祉・医療のアウトリーチなど、多様な分野で役に立つ

- ・人的資源を集める
- ・サービスとつなげる
- ・個人情報を集める